

まだまだやることいっぱい!!

和田 紗美さん(42歳)

紗美さんは、仁淀川町用居に「用居農場」を令和4年に設立しました。シキビ、ユズ、山菜、原木シタケなどを栽培し、愛媛県の花き市場や、池川439交流館などの直販所へ出荷しています。

「売り場に花が無いと、シキビはなかなか売れない。一緒に販売できるよう、小菊、アスターなど露地で栽培できる花を勉強してます」と話す努力家の紗美さん。

今後の抱負を訪ねると、「やることいっぱいあって、わからん(笑)」と話します。「娘の成長が楽しみ」と笑顔を見せてくれました。



吾川支所管内池川より

Instagramは
こちら!



@MOCHIFARM



一緒に活動する仲間、

増えてほしい!

池澤 宜祥さん(43歳)

宜祥さんは7年ほど前に、祖父の後を継ぎ就農。ショウガと水稻を栽培しています。

令和6年度から青壮年部コスモス本部伊野支部の支部長に就任しました。青壮年部の主な活動は、廃ボリや屑鉄回収や研修旅行など。京都の工具会社や奈良の種苗メーカーに見学に行くなど、活発に活動しています。

「部員にはショウガ農家が多く、栽培中の相談事などしやすいので助かっています」と話します。「どんどん若い生産者に加入してもらいたい!」と笑顔を見せてくれました。



伊野支所管内より

西森商会の看板ネコだにゃん♪

テラ・ドビー・モチ・ブア (エキゾチックショートヘア)

飼い主: 西森 和夫さん

越知支所管内には4匹の看板猫がいます。ブアとモチは姉妹で、模様もよく似ていますが、性格はちょっと違っていて、ブアはよく走り回り、モチはおっとりという印象だそう。ドビーは人見知りで、隠れん坊の達人。いつも思いかけない隙間を見つけて潜んでいます。テラは美食家で「ちゅ~る」も、国産の高級なシリーズしか食べないとのこと。鶏やササミがお好みです。

みんな違って、みんなかわいい♡ 看板ネコちゃんに会いに行ってくださいね♪



土佐市支所管内より



5 営農

ジューシーな水晶文旦



収穫間近の「水晶文旦」を見つめる中平部会長

土佐市施設果樹部会では12人が約22ヘクタールで「水晶文旦」を栽培しています。9月中旬から11月上旬までに約65tの出荷を見込みます。

「水晶文旦」は日焼けや果皮の傷を予防する黒い果実袋をかぶせて栽培され、一玉一玉、手で選別し箱詰めします。

同部会の中平吉彦部会長は「暑さで管理がたいへんだった。例年並みに仕上げることができずとしている。みずみずしい水晶文旦を味わってほしい」と話しました。

6 営農 良質なイチゴ生産に向け 苗を炭酸ガスで処理



ハダニ処理のため苗を運び込む会員

佐川支所苺部会は9月下旬、ハダニ駆除のため、苗の炭酸ガス処理を行いました。

出荷場に設置された炭酸ガス処理施設では、部会員14人のうち7人が約50000本を処理しました。

仁淀川営農経済センターの佐竹謙農業指導員は、「炭酸ガスは化学薬品を含まず、残留毒性の心配がない。防除の手間や費用を考えると有用性は高いと思う。定植前の作業は大変だが施設を活用し収量アップにつなげてほしい」と話しました。

3 組織活動

もっと便利に！
スマホ教室 女性部で実施

スマホの使い方を聞く参加者（右）

女性部土佐市地区は9月11日、土佐市でスマート教室を開き10人が参加しました。

「はじめてのスマートフォン」「かんたんなオンライン手続きから学ぼう」の2つの講座を実施。オンライン手続きについては、JA職員がJ-Aパンク、JA共済それぞれのアプリを説明し、便利性やできる手続きなどをPRしました。

参加者は「どつでもわかりやすかった」「オンライン手続きは難しいけど、挑戦してみたい」と話しました。

4 ライフスクール 手作りみそ好評 協力し合って作ろう！



あぐりライフスクール土佐市会場では9月25日～28日に、「みそ作り体験」を開き、女性部員や管内外の地域住民ら15人が参加しました。

参加者は蒸した米に麹菌を転がすように、まんべんなく付けて、3日間かけて麹を作りました。3日目には茹でた大豆と麹をミキサーにかけて仕上げました。

参加者は「やつと予定が合いで、参加できた。手作りできて嬉しい」「いろんな人と出会えて楽しかった」と喜びました。

Monthly Topics

できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！

仁淀川地区は9月26日、日高村で新嘗祭に献上する米の抜穂式を行い、同村JA、関係者ら約20人が出席しました。献穀者は選ばれた竹田芳則さんの水田では、5月中旬に同村にあるJAの育苗センターで生育した「ヒノヒカリ」の苗を植え付け、田植式を行っています。

J-A職員ら6人が刈女を務め、かすり着物をまとった姿で式典に参加。小村神社の吉田宮司が無事に米が育ったことに感謝する祝詞をあげた後、竹田さんや

刈女が横一列に並んで、黄金色に実った稻穂を手作業で刈り取り、祭壇にささげました。

竹田さんは「日高村の山水を使つて出来た自慢のお米。天候の影響で苦労したが、関係者の皆さんに協力していただき無事に迎えられた。今後も

生産を続けられるように」から勉強するつもりで頑張る」と話しました。

収穫した30kgの献納米は、精米と振り分けを行い、10月下旬に皇室へ献上する予定です。



刈り取りをした刈女らと竹田さん（右端）

1 営農

新嘗祭献上の米 無事に収穫

女性部土佐市地区は9月9日、土佐市で「気軽に『おうち』『ハイ体験』」を開き、12人が参加しました。

高知市にあるCOFFEE plusの林竜哉さんを講師に招き、コーヒー豆の鮮度の見分け方や、保存方法、お湯の温度による違い、使用する器具の特徴や違いなどについて学びました。

林さんは、淹れ方のポイントとして「お湯はドリップバーの中から外側に渦巻き状に細く注ぐこと。お湯の注ぐ範囲はペーパーの少し内側までにとどめて、

お湯がペーバーに直接当たらないようにすること」が大切」と伝えました。

参加者全員で、ドリップを実践し、それぞれが入れたコーヒーを飲み比べ、「こつちはあつさりとしちゅう」「ぎりっとしちゅう気がする」など感想を述べ合いました。

参加者はペーパーフィルターの折り方から、豆の保存も、全部違つてた。学べてよかったです。帰つてドリップの練習をした「帰つてドリップ」など笑顔を見せました。



2 組織活動

コーヒー教室で仲間づくり
女性部土佐市地区

